

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)		
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 選定した記事内容	
70	-	-	-	24.15	24.40	径10~20mmの大型の石英、カリ長石、長石の斑晶が多い。	24.15	24.40	24.15~24.40m: 径10~20mmの大型の石英、カリ長石、長石の斑晶が多い。	-
71	24.59	24.59	40° 割れ目ぞい幅10mm淡緑灰色化(緑泥石化)。 φ0.5mm前後の雲母を伴う。	24.59	24.59	40° 割れ目ぞい幅10mm淡緑灰色化(緑泥石化)。 φ0.5mm前後の白雲母を伴う。	24.59	25.61	24.59m、25.09m、25.61m: 傾斜40~45°の割れ目ぞいに幅10~20mmが 緑泥石化により淡緑灰色化し、径0.5~1mmの白雲母を伴う。	・記事内容がほぼ同じであるため、25.09m、25.61mの記事を含めて記載した
72	25.10	25.10	45° 割れ目ぞい幅20mmが淡緑灰色化(緑泥石化)し、 φ0.5~1mmの雲母を伴う。	25.09	25.09	45° 割れ目ぞい幅20mmが淡緑灰色化(緑泥石化)し、 φ0.5~1mmの白雲母を伴う。	-	-	-	・上記でまとめ書きしたため記載しない
73	25.40	25.40	50° 幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布	-	-	-	25.40	25.40	25.40m: 傾斜50°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	-
74	-	-	-	25.41	25.41	傾斜55°、幅1~3mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。 割れ目ぞいはわずかに緑色化。	25.41	25.41	25.41m: 傾斜55°で幅1~3mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。割れ目ぞいはわずかに緑色化する。	-
75	25.61	25.61	40° 割れ目ぞい幅10mmが淡緑灰色化(緑泥石化)。 φ0.5~1mmの雲母を若干伴う。	25.61	25.61	40° 割れ目ぞい幅10mmが淡緑灰色化(緑泥石化)。 φ0.5~1mmの白雲母を若干伴う。幅1~2mm の岩片混じり褐色粘土を挟む。	25.61	25.61	25.61m: 傾斜40°で幅1~2mmの岩片混じり褐色粘土を挟む。	・淡緑灰色化については、上記でまとめ書きしたため記載しない
76	25.96	26.22	25.96m・50° ~ 26.22m・45° の各割れ目に囲まれて、 全体が風化で細片状~砂状化主体となる。	-	-	-	25.96	26.22	25.96m・50° ~ 26.22m・45° の間は、全体が風化で細片状~砂状化が主体となる。	-
77	26.78	27.75	見掛け上は割れ目は少ないが、1~3cm間隔で低密着割れ目が分布し、ハンマーの打撃でφ1~3cmの岩片に細片化する。割れ目や低密着割れ目ぞいに砂状化し、27.00~27.23mでは砂状部が掘削時に流失している。一部スライムを混入。粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。	26.70	27.75	見掛け上は割れ目は少ないが、1~3cm間隔で低密着割れ目が分布し、ハンマーの打撃でφ1~3cmの岩片に細片化する。割れ目や低密着割れ目ぞいに砂状化し、27.00~27.23mでは砂状部が掘削時に流失している。一部27.16~27.22mはスライムを混入。粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。	26.78	27.75	26.78~27.75m: 低密着割れ目が1~3cm間隔で分布し、ハンマーの打撃でφ1~3cmの岩片に細片化する。割れ目や低密着割れ目ぞいに砂状化し、27.00~27.23mでは砂状部が掘削時に流失している。一部27.16~27.22mはスライムを混入。粘土化部や粘土脈は殆んど分布しない。	-
78	27.10	27.22	(地質名欄) Gp (割れ目状態欄) oランク (コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Eランク (風化欄) δランク (変質欄) 2ランク (岩級区分欄) D	27.16	27.22	(地質名欄) コア欠如 (割れ目状態欄) 空欄 (コアの形状欄) 空欄 (コアの硬さ欄) 空欄 (風化欄) 空欄 (変質欄) 空欄 (岩級区分欄) 空欄	27.16	27.22	(地質名欄) コア欠如 (割れ目状態欄) 空欄 (コアの形状欄) 空欄 (コアの硬さ欄) 空欄 (風化欄) 空欄 (変質欄) 空欄 (岩級区分欄) 空欄	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (要奥箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度		選定した記事内容
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (要奥箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
79	27.75	28.43	破砕帯	27.75	28.43	破砕部			●27.75～28.43m:破砕部 27.75～27.91m:粘土質礫状部(Hb) 上端20°で砂状化し不明瞭、下端15°で直線的にシャープに連続。 径2～3mmの石英粒、径5～10mmのほぼ粘土化した岩片を多く含む。やや軟質。下端は幅2～3mmでマンガン鉱染を受ける。上端側は明褐色、下端側は明褐色でマンガン鉱染部を呈する。幅160mm。 27.91～28.33m:粘土混じり岩片状部(Hj) 上端15°、下端53°でともに直線的でシャープに連続。幅1～5mmの灰黄～にぶい黄橙(10YR 7/2)～灰白色(10YR 8/1)の軟質粘土が27.91～27.96mでは10～20°で、27.96m以深では、網状に岩片間を縫うように分布。全体として粘土混じり岩片状を呈する。 28.33m:粘土状部(Hc-1) 傾斜53°で直線的にシャープに幅2～5mmの灰黄褐色の軟質な粘土からなる。 28.33～28.43m:粘土質礫状部(Hb) 上端53°、下端60°でともに直線的でシャープに連続。径1～2mmの石英粒と径3～10mmの大半が粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。灰白～明赤灰～明黄褐色を呈する。幅60mm。			・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
80	27.75	27.91	Hb 上端20°、下端15°で、上端は砂状化し不明瞭、下端は直線的でシャープに連続。φ2～3mm石英粒、φ5～10mmのほぼ粘土化した岩片を多く含む。やや締った礫質粘土。下端は幅2～3mmでマンガン鉱染を受ける。上端側は明褐色、下端側は明赤灰でマンガン鉱染部は黒褐色。厚さ160mm。	27.75	27.91	Hb 上端20°、下端15°で、上端は砂状化し不明瞭、下端は直線的でシャープに連続。やや軟質。φ2～3mm石英粒、φ5～10mmのほぼ粘土化した岩片を多く含む粘土質礫状部からなるやや締った礫質粘土。下端は幅2～3mmでマンガン鉱染を受ける。上端側は明褐色、下端側は明赤灰でマンガン鉱染部は黒褐色。厚さ160mm。 含まれる細粒部は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。						
81	27.91	28.33	Hj 上端15°、下端53°で、両端ともに直線的でシャープに連続する。幅1～5mmの灰黄(2.5Y 7/2)～にぶい黄橙(10YR 7/2)～灰白(10YR 8/1)の軟質粘土が27.95～28.00mでは10～20°で、28.00m以深では、網状に岩片間を縫うように分布。全体として粘土混り岩片状を呈する。色調は明褐色(7.5YR 7/2)～にぶい黄橙(10YR 7/2)で、厚さ40mm。	27.91	28.33	Hj 上端15°、下端53°で、両端ともに直線的でシャープに連続する。幅1～5mmの灰黄(2.5Y 7/2)～にぶい黄橙(10YR 7/2)～灰白色(10YR 8/1)の軟質粘土が27.91～27.96mでは10～20°で、27.96m以深では、網状に岩片間を縫うように分布。全体として粘土混じり岩片状を呈する。 やや軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。色調は明褐色(7.5YR 7/2)～にぶい黄橙色(10YR 7/2)で、厚さ40mm。	27.75	28.43				
82	28.33	28.33	Hc-1(主せん断面) 53°、幅2～5mmで直線的でシャープに連続する。灰黄褐色(10YR 5/2)の軟弱粘土脈。	28.33	28.33	Hc-1(最新活動面) 53°、幅2～5mmで直線的でシャープに連続する。灰黄褐色(10YR 5/2)の軟質粘土脈。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。						
83	28.33	28.43	Hb 上端53°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mmの石英粒と、φ3～10mmの大半が粘土化したGp岩片からなる軟弱な礫質粘土。灰白(5YR 8/1)～明赤灰(2.5R 7/1)～明黄褐色(10YR 6/6)を呈し、厚さ60mm。	28.33	28.43	Hb 上端53°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1～2mmの石英粒と、φ3～10mmの大半が粘土化したGp岩片からなる軟質な粘土質礫状部。灰白(5YR 8/1)～明赤灰(2.5R 7/1)～明黄褐色(10YR 6/6)を呈し、厚さ60mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。						
84	27.75	27.91	(破砕度区分欄)記載なし	27.75	27.91	(破砕度区分欄)Hb	27.75	27.91	(破砕度区分)Hb			
85	27.91	27.95	(破砕度区分欄)記載なし	27.91	27.95	(破砕度区分欄)Hj	27.91	27.95	(破砕度区分)Hj			
86	28.43	29.73	岩片は硬さ「C」主体である。30～60°を主体に低密着割れ目を多く含む。粘土脈をはさむ割れ目は少ない。28.70m以浅では、割れ目でないにマンガン鉱染し、黒褐色化する。	28.43	29.73	岩片は硬さ「C」主体である。30～60°を主体に低密着割れ目を多く含む。粘土脈を挟む割れ目は少ない。28.70m以浅では、割れ目沿いにマンガン鉱染し、黒褐色化する。	28.43	29.73	28.43～29.73m:傾斜30～60°主体の低密着割れ目を多く含む。粘土脈を挟む割れ目は少ない。 マンガン鉱染については下記に具体的に記載した			
87	27.57	27.57	65°割れ目は幅2mmの粘土脈をはさむが、マンガン鉱染で黒褐色化する。	28.57	28.57	65°割れ目は幅2mmの粘土脈を挟むが、マンガン鉱染で黒褐色化する。	28.57	28.57	28.57m:傾斜65°で幅2mmの粘土脈を挟むが、マンガン鉱染で黒褐色化する。			
88	28.71	29.00	(コアの硬さ欄)Bランク	28.71	29.00	(コアの硬さ欄)Cランク	28.71	29.00	(コアの硬さ欄)Cランク			

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事	選定した記事内容		
										報告書柱状図記事	
89	29.48	29.73	(コアの形状欄) Vランク	29.48	29.73	(コアの形状欄) IVランク	29.48	29.73	(コアの形状欄) IVランク	-	
90	29.73	30.20	硬質で、割れ目も少ない。ほぼ未風化、未変質である。	29.73	30.20	硬質で、割れ目も少ない。ほぼ未風化、未変質である。	29.73	30.20	29.73~30.20m:硬質で割れ目も少ない。ほぼ未風化、未変質である。	-	
91	30.20	31.03	低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔のコア形状IVである。割れ目、低密着割れ目は30~50°主体で、両者ぞいに薄く砂状化する部分もある。	30.20	31.03	低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔のコア形状IVである。割れ目、低密着割れ目は30~50°主体で、両者ぞいに薄く砂状化する部分もある。	30.20	31.03	30.20~31.03m:低密着割れ目も多いが、概ね3cm以上の割れ目間隔である。割れ目、低密着割れ目は傾斜30~50°が主体で、それらに沿って薄く砂状化する部分もある。	記事欄以外から読み取れるコア形状の情報は記載しない	
92	31.03	32.30	60~70°割れ目、低密着割れ目が主体で、一部で、これらに斜交~直交する40~50°割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目ぞいに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土脈は殆んど挟まない。	31.03	32.30	60~70°割れ目、低密着割れ目が主体で、一部で、これらに斜交~直交する40~50°割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目ぞいに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土脈は殆んど挟まない。 31.25~31.40m間はやや湾曲した傾斜80~90°で、31.60~31.61mでは傾斜50°で、幅5~20mm程度のカリ長石の濃集部の脈を伴う。	31.03	32.30	31.03~32.30m:傾斜60~70°の割れ目、低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する40~50°の割れ目、低密着割れ目も分布する。割れ目ぞいに風化し、薄く砂状化する部分もあるが、粘土脈は殆んど挟まない。 31.25~31.40m間はやや湾曲した傾斜80~90°で、31.60~31.61mでは傾斜50°で、幅5~20mm程度のカリ長石の濃集部の脈を伴う。	-	
93	31.37	31.51	1~1.5cm間隔で60~70°割れ目~低密着割れ目が平行に分布する。	-	-	-	31.37	31.51	31.37~31.51m:1~1.5cm間隔で傾斜60~70°の割れ目、低密着割れ目が平行に分布する。	-	
94	31.75	32.30	85~90°割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に軟弱な灰白色粘土脈1~2mmが付着する。	31.75	32.30	85~90°割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に軟弱な灰白色粘土脈1~2mmが付着する。	31.75	32.30	31.75~32.30m:傾斜85~90°の割れ目がやや波打って連続する。割れ目の一部に幅1~2mmの軟弱な灰白色粘土が付着する。	-	
95	32.13	32.13	60°、幅5~8mmでφ1~3mmの角礫化した破砕割れ目が分布する。基質は砂質土で、マンガン鉱染により黒褐色する。	32.13	32.13	60°、幅5~8mmでφ1~3mmの礫を含むマンガン脈を挟む。角礫化している部分があり、その岩片は移動や回転をしていない。角礫化した破砕割れ目が分布する。基質は砂質土で、マンガン鉱染により黒褐色する。	32.13	32.13	32.13m:傾斜60°、幅5~8mmで径1~3mmの礫を含むマンガン脈を挟む。角礫化している部分があり、岩片は移動や回転をしていない。	-	
96	32.30	33.10	一部で硬さBの硬質岩片を含んでいる。30~50°割れ目と、これらに斜交~直交する60~80°割れ目が主体。32.86m~80°割れ目の上盤側は、割れ目ぞいの砂状化はないが、下盤側の一部の割れ目では、割れ目ぞいの一部が風化で薄く砂状化する。粘土化部や粘土脈は全区間を通じて殆んど分布しない。33.00~33.10mの細かい割れ目に厚さ0.5mm以下の粘土フィルムが付着している。	32.30	33.10	一部で硬さBの硬質岩片を含んでいる。30~50°割れ目と、これらに斜交~直交する60~80°割れ目が主体。32.86m~80°割れ目の上盤側は、割れ目ぞいの砂状化はないが、下盤側の一部の割れ目では、割れ目ぞいの一部が風化で薄く砂状化する。32.86m、傾斜60°、32.76m、傾斜30°に幅5~15mmのカリ長石の濃集した脈を挟む。粘土化部や粘土脈は全区間を通じて殆んど分布しない。33.00~33.10mの細かい割れ目に厚さ0.5mm以下の粘土フィルムが付着している。	32.30	33.10	32.30~33.10m:一部で硬さ「B」の硬質岩片を含む。傾斜30~50°の割れ目と、これらに斜交~直交する60~80°の割れ目が主体である。32.86mの傾斜80°の割れ目の上盤側は、割れ目ぞいの砂状化はないが、下盤側の一部では、割れ目ぞいの一部が風化で薄く砂状化する。32.68mに傾斜80°で、32.76mに傾斜30°で、幅5~15mmのカリ長石の濃集した脈を挟む。粘土化部や粘土脈は全区間を通じて殆んど分布しない。33.00~33.10mの細かい割れ目に厚さ0.5mm以下の粘土フィルムが付着する。	-	
97	33.00	33.10	(割れ目状態欄) bランク (コアの形状欄) IVランク (コアの硬さ欄) Cランク (風化欄) γランク	33.00	33.10	(割れ目状態欄) oランク (コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Dランク (風化欄) δランク	33.00	33.10	(割れ目状態欄) oランク (コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Dランク (風化欄) δランク	-	
98	33.10	33.65	硬さBと硬質岩片からなり、割れ目の面は一部酸化褐色化するが砂状化は粘土ははさまない。	33.10	33.65	硬さBと硬質岩片で、割れ目の面は一部酸化褐色化するが砂状化や粘土は挟まない。	33.10	33.65	33.10~33.65m:割れ目の面は一部酸化褐色化するが、砂状化や粘土は挟まない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
99	33.24	33.24	75°・幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続。	-	-	-	33.24	33.24	33.24m:傾斜75°で幅1~2mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-	
100	-	-	-	33.29	33.29	傾斜50°、幅3mm程度のカリ長石の脈を挟む。	33.29	33.96	33.29~33.96m:傾斜45~60°で幅2~5mm程度のカリ長石の脈を3条挟む。	カリ長石の脈状濃集部をまとめて書きした	
101	-	-	-	33.53	33.53	傾斜45°、幅2~4mm程度のカリ長石の脈を挟む。	-	-	-	上記でまとめて書きしたため記載しない	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
113	37.15	30.60	37.15	30.41	37.15	39.41	37.15	39.41	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない ・灰白色粘土の挟については下記に具体的に記載した
114	37.18	37.68	37.15	37.68	37.15	37.68	37.15	37.68	37.15~37.68m: マンガン鉱染を受け、割れ目とその周辺は黒褐色化し、全体的には褐色(7.5YR 5/1)を呈する。
115	37.18	37.68	37.18	37.68	37.18	37.68	37.18	37.68	(色調欄) 褐色
116	37.68	37.89	37.68	37.89	37.68	37.89	37.68	37.89	(コアの形状欄) IVランク
117	38.01	38.12	38.01	38.12	38.01	38.12	38.01	38.12	(コアの形状欄) IVランク
118	38.12	38.20	38.12	38.20	38.12	38.20	38.12	38.20	38.12~38.20m: 割れ目沿いに褐色化するが、岩片は劣化していない。
119	38.23	38.95	38.23	38.95	38.23	38.95	38.23	38.95	(コアの形状欄) IVランク
120	38.95	39.41	38.95	39.41	38.95	39.41	38.95	39.41	38.95~39.41m: 風化と変質で軟質化する。上端25°、下端30°で囲まれた39.34~39.41mの区間は、傾斜20~30°や60~65°で幅1~4mmの灰白~にぶい橙色の軟質な粘土脈が多く分布する。
121	38.95	39.41	38.95	39.41	38.95	39.41	38.95	39.41	(岩級区分欄) CMに含める
122	39.41	39.60	39.41	39.60	39.41	39.60	39.41	39.60	硬さBも含んでおり、硬質では未風化、未変質である。
123	39.41	40.21	39.41	40.21	39.41	40.21	39.41	40.21	(割れ目状態欄) bランク
124	39.41	39.60	39.41	39.60	39.41	39.60	39.41	39.60	(コアの形状欄) IVランク (コアの硬さ欄) Bランク
125	39.41	40.00	39.41	40.00	39.41	40.00	39.41	40.00	(岩級区分欄) CM
126	39.50	39.50	39.50	39.50	39.50	39.50	39.50	39.50	20° 幅2~4mmの石英脈が母岩に密着して分布。 39.50m: 傾斜20°で幅2~4mmの白色変質脈を挟む。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
139	41.62	42.37	硬さBと硬質で、割れ目もやや少なくなる。40°~50°割れ目が主体。また、40°~50°と80°前後の低密着割れ目が多い。割れ目、低密着割れ目には砂状化、粘土脈などの挟在物はない。ただし、42.03mなどでは55°割れ目ぞいの一部がφ3~5mmで硬質細片化している。	41.62	42.37	硬さBと硬質で、割れ目もやや少なくなる。40°~50°割れ目が主体。また、40°~50°と80°前後の低密着割れ目が多い。割れ目、低密着割れ目には砂状化、粘土脈などの挟在物はない。ただし、42.03mなどでは55°割れ目ぞいの一部がφ3~5mmで硬質細片化している。	41.62	42.37	41.62~42.37m: 傾斜40°~50°の割れ目が主体で、傾斜40°~50°と80°前後の低密着割れ目も多い。割れ目、低密着割れ目には砂状化、粘土脈などの挟在物はない。42.03mなどでは傾斜55°の割れ目ぞいの一部が径3~5mmで硬質細片化する。	記事欄以外から読み取れる硬さや割れ目の多寡の情報は記載しない
140	41.92	41.92	40° 幅5~6mm石英脈が母岩に密着して連続。脈の周辺にφ0.1mmの金属鉱物が晶出。	-	-	-	41.92	41.92	41.92m: 傾斜40°で幅5~6mmの石英脈が母岩に密着して連続する。脈の周辺に径0.1mmの金属鉱物が晶出する。	-
141	42.37	42.61	低密着割れ目が細かい網状で分布し、打撃で分離し易い。42.37~42.46mは割れ目が約10mm間隔で交差し、岩片もφ10mm前後に細片化している。岩片間に軟弱で白色の粘土がこくわずかに付着している。	42.37	42.61	低密着割れ目が細かい網状で分布し、打撃で分離し易い。42.37~42.46mは割れ目が約10mm間隔で交差し、岩片もφ10mm前後に細片化している。岩片間に軟質で白色の粘土がこくわずかに付着している。	42.37	42.61	42.37~42.61m: 低密着割れ目が細かい網状で分布し、打撃で分離し易い。42.37~42.46mは割れ目が約10mm間隔で交差し、岩片も径10mm前後に細片化する。岩片間に軟質の白色粘土がこくわずかに付着する。	-
142	42.43	42.43	60° 割れ目はせん断性割れ目で、面上に条線が認められる	42.43	42.43	60° 割れ目は、 交差する42.38mの緑色化する割れ目を見かけ2mm程度左側に変位させているせん断性割れ目で、面上に条線が認められる。割れ目の挟在物不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	42.43	42.43	42.43m: 傾斜60°の割れ目は、交差する42.38mの緑色化する割れ目を見かけ2mm程度左側に変位させている。割れ目面に条線が認められる。割れ目の挟在物不連続で、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
143	42.61	43.34	30°~50° 割れ目が主体で、ほぼ平行に分布する。硬質で、割れ目は薄く酸化褐色化するが、砂、粘土の挟在物はない。一部でマンガン鉱染受け黒褐色化するが、劣化は伴わない。	42.61	43.34	30°~50° 割れ目が主体で、ほぼ平行に分布する。硬質で、割れ目は薄く酸化褐色化するが、砂、粘土の挟在物はない。一部でマンガン鉱染受け黒褐色化するが、劣化は 伴わない。	42.61	43.34	42.61~43.34m: 傾斜30°~50°の割れ目が主体で、ほぼ平行に分布する。割れ目は薄く酸化褐色化するが、砂、粘土の挟在物はない。一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化するが、劣化は伴わない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
144	43.39	43.39	55° 幅3~4mm石英脈が母岩に密着して連続する。	43.29	43.29	55° 幅3~4mm石英脈が母岩に密着して連続する。	43.29	43.29	43.29m: 傾斜55°で幅3~4mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-
145	43.34	45.00	岩片自身は硬さBが多いが、低密着割れ目が細かく分布し、全体として硬さ「C」を呈する。割れ目は90°~10°と、これに斜交~直交する30°~60°が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈をはさむものもある。	43.34	45.00	岩片自身は硬さBが多いが、低密着割れ目が細かく分布し、全体として硬さ「C」を呈する。割れ目は90°~70°と、これに斜交~直交する30°~60°が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を 挟むものもある。	43.34	45.00	43.34~45.00m: 岩片は硬いが、低密着割れ目が細かく分布する。割れ目は傾斜50°~70°と、これに斜交~直交する30°~60°が主体で、割れ目の一部は薄く砂状化したり、幅1~2mmの軟質な白色粘土脈を挟むものもある。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
146	43.34	43.34	55° 割れ目幅2mmで砂状化し、一部でφ1mmの雲母片が晶出している。砂はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。本割れ目1cm下位の43.35mには、本割れ目と平行に幅3~5mmの石英脈が連続する。	43.34	43.34	55° 割れ目幅2mmで砂状化し、一部でφ1mmの 白雲母片 が晶出している。砂はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。本割れ目1cm下位の43.35mには、本割れ目と平行に幅3~5mmの石英脈が連続する。	43.34	43.35	43.34m: 傾斜55°の割れ目ぞいが幅2mmで砂状化し、一部で径1mmの白雲母が晶出する。砂はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。 43.35m: 上記の割れ目と平行に幅3~5mmの石英脈が連続する。	-
147	43.34	44.40	(割れ目状態欄) blank	43.34	44.40	(割れ目状態欄) blank	43.34	44.40	(割れ目状態欄) blank	-
148	44.67	44.67	65° 割れ目はせん断性割れ目で、交差する60°割れ目を切って、やや波打ちながら連続する(変位量5mm左ズレ)。	44.67	44.67	65° 割れ目は せん断性割れ目で、交差する60°割れ目を止めて切って、やや波打ちながら連続する(変位量5mm左ズレ)。 割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	44.67	44.67	44.67m: 傾斜65°の割れ目は、交差する60°の割れ目を止めて、やや波打ちながら連続する。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
149	44.83	44.83	60° 割れ目の一部に幅1~2mmの軟質白色粘土が付着。粘土脈としての連続性はない。	44.83	44.83	60° 割れ目の一部に幅1~2mmの軟質白色粘土が付着。 粘土脈としての連続性はない。	44.83	44.83	44.83m: 傾斜60° の割れ目の一部に幅1~2mmの軟質な白色粘土が付着する。	-	
150	44.83	45.15	(割れ目状態欄) aランク	44.83	45.15	(割れ目状態欄) bランク	44.83	45.15	(割れ目状態欄) bランク	-	
151	45.00	45.45	60~70° 割れ目、低密着割れ目が主体で、これらに斜交~直交する40~60° 割れ目、低密着割れ目が分布する。一部の割れ目でごく薄く砂状化するが、粘土脈はさままない。各割れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。	45.00	45.45	60~70° 割れ目、低密着割れ目が主体で、これらに斜交~直交する40~60° 割れ目、低密着割れ目が分布する。一部の割れ目でごく薄く砂状化するが、粘土脈は 挟まない 。各割れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。	45.00	45.45	45.00~45.45m: 傾斜60~70° の割れ目、低密着割れ目が主体で、これらに斜交~直交する40~60° の割れ目、低密着割れ目が分布する。一部の割れ目はごく薄く砂状化するが、粘土脈は挟まない。割れ目はマンガン鉱染で薄く黒褐色化する。	-	
152	45.15	45.45	(コアの形状欄) IVランク	45.15	45.45	(コアの形状欄) Vランク	45.15	45.45	(コアの形状欄) Vランク	-	
153	45.24	45.24	45° 幅2~18mmと膨縮して連続するが、母岩に対し、上盤側の一部は割れ目化、下盤側は密着する。	45.24	45.24	45° 幅2~18mmと膨縮して 石英脈 が連続するが、 母岩に対し、上盤側 の一部は割れ目化、 下盤側 は密着する。	45.24	45.24	45.24m: 傾斜45° で幅2~18mmと膨縮した石英脈が連続する。上盤側の一部は割れ目化、下盤側は密着する。	-	
154	45.45	46.06	70~80° とこれに斜交~直交する40~60° 割れ目、低密着割れ目が主体。特に低密着割れ目が多く、約10~30mm間隔で分布している。堅硬な硬さBからなり、割れ目には挟在物は殆んど分布しない。	-	-	-	45.45	46.06	45.45~46.06m: 傾斜70~80° とこれに斜交~直交する40~60° の割れ目、低密着割れ目が主体で、特に低密着割れ目が多く、約10~30mm間隔で分布する。割れ目には挟在物は殆んど分布しない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
155	45.81	45.81	45° 割れ目はせん断性割れ目で、直交する70° 割れ目を切っている(変位量4mm左ズレ)。	45.81	45.81	45° 割れ目の せん断性 割れ目は、直交する70° 割れ目で横断される。 を切っている(変位量4mm左ズレ) 。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、 系統的な割れ目も存在しない 。	45.81	45.81	45.81m: 傾斜45° の割れ目は、直交する傾斜70° の割れ目で横断される。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	
156	46.06	46.31	上位から続く硬さBで塊状(Ⅲ)。互いに直交する50° 前後の割れ目からなる。割れ目には挟在物はない。	46.06	46.31	上位から続く硬さBで塊状(Ⅲ)。互いに直交する50° 前後の割れ目が 分布する 。割れ目には挟在物はない。	46.06	46.31	46.06~46.31m: 互いに直交する傾斜50° 前後の割れ目が分布する。割れ目には挟在物はない。	記事欄以外から読み取れる硬さ、コア形状の情報は記載しない	
157	46.31	46.67	40~50° 割れ目、低密着割れ目が約10mm間隔と細かく平行に分布し、一部で薄く砂状化する。岩片は硬さBも含むが全体にC主体	-	-	-	46.31	46.67	46.31~46.67m: 傾斜40~50° の割れ目、低密着割れ目が約10mm間隔と細かく平行に分布し、一部で薄く砂状化する。一部の岩片は硬質であるが、全体にやや硬質である。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
158	46.31	46.53	(風化欄) δランク	46.31	46.53	(風化欄) γランク	46.31	46.53	(風化欄) γランク	-	
159	46.67	47.48	硬さBと硬質で、割れ目も少ない。46.45~47.00mに85° の低密着割れ目が分布する。割れ目、低密着割れ目とも挟在物はない。	46.67	47.48	硬さBと硬質で、割れ目も少ない。 46.85~47.00m に85° の低密着割れ目が分布する。割れ目、低密着割れ目とも挟在物はない。	46.67	47.48	46.67~47.48m: 割れ目、低密着割れ目とも挟在物はない。46.85~47.00mに傾斜85° の低密着割れ目が分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さ、コア形状の情報は記載しない	
160	47.48	47.67	岩片はBと硬質であるが、60~85° の低密着割れ目が分布し細片化する。	-	-	-	47.48	47.67	47.48~47.67m: 傾斜60~85° の低密着割れ目が分布し細片化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
161	47.67	48.52	40~50° 割れ目主体で平行に分布。48.17m以浅は風化で割れ目その一部は砂状化する。以深は風化弱くなり砂状化しない。また、粘土脈は殆んどはさまない。	47.67	48.52	40~50° 割れ目主体で平行に分布。48.17m以浅は風化で割れ目 沿い の一部は砂状化する。以深は風化弱くなり砂状化しない。また、粘土脈は殆んどはさまない。	47.67	48.84	47.67~48.84m: 傾斜40~50° の割れ目が平行に分布し、傾斜40~50° ないし60~70° の低密着割れ目も分布する。48.17m以浅は風化で割れ目沿いの一部は砂状化する。砂や粘土脈は殆んど挟まない。	・傾斜40~50° の割れ目が平行に分布する区間をまとめて書きした ・記事欄以外から読み取れる風化の情報は記載しない
162	48.17	48.17	50° 割れ目に幅5~7mmの風化した明褐色(7.5YR 5/6)の砂をはさむ。両側幅5~10mmは淡緑灰色化(緑泥石化)する。φ0.1mmの微細な雲母が晶出する。	48.17	48.17	50° 割れ目に幅5~7mmの風化した明褐色(7.5YR 5/6)の砂を挟む。両側幅5~10mmは淡緑灰色化(緑泥石化)する。φ0.1mmの微細な白雲母が晶出する。	48.17	48.17	48.17m: 傾斜50° で幅5~7mmの風化した明褐色の砂を挟む。両側幅5~10mmは緑泥石化により淡緑灰色化する。径0.1mmの微細な白雲母が晶出する。	-
163	48.42	49.17	(割れ目状態欄)cランク	48.42	49.17	(割れ目状態欄)bランク	48.42	49.17	(割れ目状態欄)bランク	-
164	48.84	49.17	(コアの形状欄)Vランク	48.84	49.17	(コアの形状欄)IVランク	48.84	49.17	(コアの形状欄)IVランク	-
165	48.42	49.17	(岩級区分欄)CL	48.42	49.17	(岩級区分欄)CM	48.42	49.17	(岩級区分欄)CM	-
166	48.52	48.84	上位と同様、40~50° 割れ目が平行に分布。低密着割れ目は40~50° ないし60~70° で分布。両者とも砂、粘土脈ははさまない。	48.52	48.84	上位と同様、40~50° 割れ目が平行に分布。低密着割れ目は40~50° ないし60~70° で分布。両者とも砂、粘土脈は挟まない。	-	-	-	・上記でまとめて書きしたため記載しない
167	48.84	49.83	40~50° 割れ目、低密着割れ目主体で、49.17m以深では風化が進み、割れ目沿いが砂状化することが多い。また、一部の割れ目、低密着割れ目で幅0.5mmの軟弱な白~明黄褐色粘土脈をはさむ。	48.84	49.83	40~50° 割れ目、低密着割れ目主体で、49.17m以深では風化が進み、割れ目沿いが砂状化することが多い。また、一部の割れ目、低密着割れ目で幅0.5mmの軟弱な白~明黄褐色粘土脈を挟む。	48.84	49.83	48.84~49.83m: 傾斜40~50° の割れ目、低密着割れ目が主体で、49.17m以深では割れ目沿いに砂状化することが多い。一部の割れ目、低密着割れ目で幅0.5mmの軟弱な白~明黄褐色の粘土脈を挟む。	・記事欄以外から読み取れる風化の情報は記載しない
168	49.83	52.07	硬さBと堅硬で20~40° の割れ目が主体である。上端側の49.83~50.04mと50.24~50.32mは緑灰色(7.5GY 5/1)化する(緑泥石化)。粘土化部や粘土脈は伴わないが、緑色化部下盤側の50.04~50.11mは若干風化し、割れ目のごく薄い風化砂をはさむ。緑灰色部は主として割れ目方向と調和的に分布している。	49.83	52.07	硬さBと堅硬で20~40° の割れ目が主体である。上端側の49.83~50.03mと50.24~50.32mは緑灰色(7.5GY 5/1)化する(緑泥石化)。粘土化部や粘土脈は伴わないが、緑色化部下盤側の50.03~50.11mは若干風化し、割れ目のごく薄い風化砂を挟む。緑灰色部は主として割れ目方向と調和的に分布している。	49.83	52.07	49.83~52.07m: 傾斜20~40° の割れ目が主体で、一部緑泥石化により緑灰色化する。緑灰色部は割れ目方向と調和的に分布する。粘土化部や粘土脈は伴わない。50.03~50.11m間は若干風化し、割れ目のごく薄い砂を挟む。	・記事欄以外から読み取れる硬さや色調の深度の情報は記載しない
169	49.83	50.00	(色調欄)7.5YH5/2灰褐	49.83	50.00	(色調欄)7.5GY5/1緑灰	49.83	50.00	(色調欄)緑灰	-
170	50.81	50.81	40° はせん断性割れ目で、交差する55° 割れ目を切っている(変位量10mm左ズレ)	50.81	50.81	40° のせん断性割れ目は、交差する55° 割れ目を止めている。切っている(変位量10mm左ズレ)割れ目には挟入物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	50.81	50.81	50.81m: 傾斜40° の割れ目は、交差する55° の割れ目を止めている。割れ目には挟入物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
171	51.30	51.33	51.30m・38°、51.33m・47° の各割れ目にφ0.1mmと微細な金風鉱物(黄鉄鉱)が晶出している。	-	-	-	51.30	51.33	51.30m、51.33m: 傾斜38°、47° の各割れ目に径0.1mmの微細な黄鉄鉱が晶出する。	-
172	51.44	51.56	割れ目ぞいにやや風化進む。	51.44	51.56	割れ目ぞいにやや風化進む。	-	-	-	-
173	51.44	51.56	(風化欄)δランク	51.44	51.56	(風化欄)γランク	51.44	51.56	(風化欄)γランク	-
174	51.80	51.80	25° 割れ目に方解石と推定される白色鉱物が割れ目の一部に幅1mmの脈状に分布。	51.80	51.80	25° 割れ目に白色鉱物が割れ目の一部に幅1mmの脈状に分布。	51.80	51.80	51.80m: 傾斜25° で幅1mmの白色鉱物が不連続に脈状に分布する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-4)

孔名: H24-D1-4

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
175	51.56	52.07	80~90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。	51.66	52.07	80~90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。	51.66	52.07	51.66~52.07m: 傾斜80~90°の低密着割れ目が連続する。挟在物はない。	-
176	52.07	52.55	硬さEのφ10~30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1~5mmの軟弱な灰白色(5GY 8/1)~白色粘土脈からなる変質部。	52.07	52.55	硬さEのφ10~30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1~5mmの軟弱な灰白色(5GY 8/1)~白色粘土脈からなる変質部。	52.07	52.55	52.07~52.55m: 径10~30mm主体の岩片と、岩片間を縫うように分布する幅1~5mmの軟弱な灰白~白色の粘土脈からなる変質部である。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
177	52.07	52.07	45° 幅7~8mm、の白色硬質粘土脈は方解石と推定される。	52.07	52.07	45° 幅7~8mmの白色硬質 石英脈 。	52.07	52.07	52.07m: 傾斜45°で幅7~8mmの硬質な白色の石英脈を挟む。	-
178	52.52	52.52	25° 幅3~5mmの白色硬質粘土脈は方解石と推定される。25°の方解石脈は明オリブ灰(5GY 7/1)の幅2~3mmの軟弱粘土を伴う。	52.52	52.52	25° 幅3~5mmの白色硬質 石英脈 。明オリブ灰色(5GY 7/1)の幅2~3mmの軟弱粘土を伴う。	52.52	52.52	52.52m: 傾斜25°で幅3~5mmの硬質な白色の石英脈を挟み、明オリブ灰色の幅2~3mmの軟弱粘土を伴う。	-
179	52.55	52.97	不特定方向の割れ目、低密着割れ目が多く、φ10~30mmの硬さCの岩片からなる。両者の一部には幅0.5~1mmの方解石脈や、52.82m・28°割れ目には幅2mmの軟弱な緑灰色粘土脈を挟む。	52.55	52.97	不規則な 割れ目、低密着割れ目が多く、φ10~30mmの硬さCの岩片からなる。両者の一部には幅0.5~1mmの 石英脈 や、52.82m・28°割れ目には幅2mmの軟弱な 緑灰色粘土脈を挟む 。	52.55	52.97	52.55~52.97m: 不規則な割れ目、低密着割れ目が多く、径10~30mmに岩片化する。一部に幅0.5~1mmの石英脈を挟み、52.82mの傾斜28°の割れ目には幅2mmの軟弱な緑灰色粘土脈を挟む。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない